

季刊 民族学

[目次]

- 003 | 特集 |
**キリスト教
受容のかたち**
—世界史のなかのかくれキリシタン
- 004 世界史のなかの
イエズス会と日本布教
高橋 裕史
- 013 新大陸における
キリスト教伝道と先住民
横山 和加子
- 023 聖トマスの恩寵
—インドにおけるキリスト教受容
杉本 良男
- 032 近世日本における
キリスト教の土着化と
キリシタンの殉教
狭間 芳樹
- 040 かくれキリシタンの信者と信仰
—ハッタイ様の行事と伝説から見えてきたこと
中園 成生
- 050 キリシタン遺物から見る
大阪・北摂地域のキリスト教受容
桑野 梓
- 058 歴史記憶としての殉教者
—日本とフィリピンの間の高山右近とロレンソ・ルイス
古沢 ゆりあ
- 062 再洗礼派とかくれキリシタン
—東西の信仰秘匿者たち
踊 共二

- 070 米国に暮らす
ケニア人移民の
生活実践(2)
～大陸を越えて密に支える～
石井 洋子
- 080 モノから見た宗教の世界 第2回
**めぐりめぐる、
インドの神がみの像**
福内 千絵
- 089 誌上再録 トークイベント
ヒトってなんだ??
—ホモ・サピエンスの誕生から
文化の獲得まで
篠田 謙一 × 池谷 和信

表紙 生月島のかくれキリシタン信仰の「お水取り」
写真・文＝中園成生

写真提供・協力

神戸市立博物館、茨木市教育委員会、Brion Jeffery Beggerly、Vmenkov、Tristan Higbee、Jean-Marc Astesana、ブラド美術館、ARCA arte colonial、オックスフォード大学ボドリアン図書館、DIGITAL BODLEIAN、フランス国立図書館、小林勝、ポルトガル国立図書館、国立国会図書館、京都大学附属図書館、大分市歴史資料館、大英図書館、国際日本文化研究センター、公益財団法人東洋文庫、九州国立博物館、LuxTonnerre、京都大学総合博物館、京都大学研究資源アーカイブ、東京大学総合図書館、上智大学キリシタン文庫、カトリック大阪大司教区、日本二十六聖人記念館、松村博文、国立科学博物館、WORLD DIGITAL LIBRARY、Alamy、Flickr、Wikimedia Commons

本文中、撮影者・提供者を記載していない写真は執筆者の撮影・提供によるものです。

雑誌『季刊民族学』は、「国立民族学博物館友の会」の会員であるところの、教養ある市民の家庭に、世界の諸民族の社会と文化に関する正確な情報を、学術研究の成果にもとづきつつ、平易で興味ぶかい表現で提供しようとするものである。いうならばそれは「家庭学術雑誌」ともいうべき、あたらしいジャンルの刊行物となることを目ざしている。

現代の市民の意識において、社会人たると家庭人たるとを問わず、世界に対する関心はますますひろく、ふかいものとなりつつある。その知的要求にこたえるためには、その表現において興味ぶかく理解しやすいものであらねばならないことはいままでもないが、その内容においては、つねに正確でたかい水準の維持に努めなければならない。同時に、読者に対しては通俗的好奇心を予想すべきではなく、品格ある教養と知的関心のつよさをこそ期待すべきであろう。雑誌『季刊民族学』は、そのようなメディアでありたいとねがっている。

雑誌『季刊民族学』のあつかう内容は、単なる客観的な世界の紹介ではない。それは、全世界を舞台に行動しつつある現代日本人の、世界意識、世界体験の反映でありたいのである。こんにちの世界において、日本人はますますつよい国際性を要求されつつある。ゆたかな世界感覚は、日ごろから、あるいは年少のころからの読書と経験によってやしなわれる。雑誌『季刊民族学』は、成人の日常的な教養の源泉であるとともに、次代の市民たる青少年少女たちへの教育の資料としても、すぐれた効果を発揮できるものでありたいとねがっている。

さいわいにして、国民待望の国立民族学博物館は創設され、機能しはじめた。その充実した研究者陣の監修・協力のもとに、雑誌『季刊民族学』は、自信をもって良質の情報を市民に提供するものである。話題のとりあつかいにおいては、ひろい視野、新鮮なアングル、シャープな焦点、そして徹底したほりさげ、などの点をモットーとして、一般ジャーナリズムとは異質の方向のものを実現したいとねがっている。「友の会」会員読者各位の、ご支援とご声援をおねがしたい。

一九七七・二〇・二〇 梅棹忠夫

表紙
生月島のかくれキリシタン
信仰の「お水取り」

写真・文◎ 中園成生

「お水取り」は生月島のかくれキリシタン信仰で、お授け(洗礼)などで使う聖水「お水」を採取する行事である。おこなわれるのは生月島の東に浮かぶ無人島・中江ノ島で、ここでは一六二二年、二四年に宣教師を支援したキリシタン信者が大勢処刑されている。かくれキリシタン信者はこの島を「サンジヨワン様」と呼び聖地としてきたが、殉教以前から洗礼者ヨハネに関する聖地として崇拜されていたと思われる。写真は堺目集落のかくれキリシタン信者が二〇〇一年七月二十九日に「土用中寄り」行事にあわせておこなった「お水取り」の様子である岩壁の前に供物を供え、裂け目に茅をさして容器の口に垂らし、オラシヨを唱えるあいだに滴った水を回収する。後日おこなう「魂入れ」の行事を経て聖水となる。